

なんとなく 豊後大野

大分県豊後大野市
観光ガイドブック

Take
Free

ある時私は水だった
山の頂から海を目指す
清流の中を揺蕩う一雫
それから私は空になった
時に自由に縛られて
鳥の羽を支えたり
言葉を持たない
無限の存在
星の光
震える大地
風が私を行けば
私は風になる
あなたを通り過ぎ
次は何になるのだろう

タイトル・詩：御徒町風

表紙の写真：緒方川と緒方盆地の農村景観 | 緒方川両岸に広がる水田や軸丸地区を始め、丘陵地上に広がる棚田の景観が国の重要文化的景観となっています。

アクセス情報



- 東京から 飛行機で約1時間50分
羽田空港→大分空港
- 大分空港から 空港バスで約1時間→JR大分駅
- 大分市方面から JRで約1時間(特急で約35分)
JR大分駅→JR三重町駅
車で約50分
- 福岡方面から JR(特急)で約3時間
JR博多駅→JR大分駅→JR三重町駅
- 北九州方面から 車で約2時間15分
- 熊本方面から JR(特急)で約2時間
車で約2時間
- 延岡方面から 車で約1時間

※所要時間は目安です。道路状況により大きく変わる場合があります。

おおいた豊後大野ジオパークガイド

知識・経験豊富な熟練したガイドが、おおいた豊後大野ジオパークを楽しくわかりやすくご案内。一緒に大自然を満喫しましょう。

ガイドのお申込み・お問い合わせ

おおいた豊後大野ジオパークガイド事務局
TEL.080-2708-7809



観光に関するお問い合わせ |

豊後大野市商工観光課
TEL.0974-22-1117



一般社団法人豊後大野市観光協会
TEL.0974-27-4215





Nature & Culture
Destinations | 03

ちんだ
沈墮の滝

大野川の主流にかかる雄滝と、支流の平井川にかかる雌滝からなります。雄滝は幅約100m、高さは20m。おおいた豊後大野ジオパークのジオサイトであるとともに、国登録記念物でもあります。室町時代に雪舟が訪れ、「鎮田瀑図」を描いたことでも有名。



Nature & Culture
Destinations | 05

こうもり
蝙蝠の滝

コウモリが翼を広げているように見えることから名付けられたと言われる、高さ10mの滝。縦に無数のひび割れが入っている荒々しい岩が特徴的。



Nature & Culture
Destinations | 04

ちんだ
沈墮発電所跡

明治時代に建設された石造りの発電所跡は、近代文化遺産に登録されています。まるで映画に出てくるような雰囲気の人気スポットです。



東洋のナイアガラとも呼ばれ、のどかな田園地帯に突如現れる「原尻の滝」。幅120m、高さ20mの滝を上や下から間近で楽しめます。目の前の吊橋から見下ろすことも可能です。

Discover More

豊後大野の大地で撮影された映画 「Good Luck／グッドラック」

豊後大野の大自然を舞台に撮影された映画「Good Luck」。主演の佐野さん、天野さんが冊子のモデルをつとめてくれました！豊後大野めぐり、多くの印象的な風景に心を動かされたそうです。



主演 | 佐野弘樹
(サノヒロキ)

1993年山梨生まれ。主な出演作に映画『本心』『愛にイナズマ』『TOCKA』『SUPER HAPPY FOREVER』、ドラマ『まどか26歳、研修医やります！』『未来の私にブッカマされる!?』、NHK連続テレビ小説『舞いあがれ！』など。



ヒロイン | 天野はな
(アマノハナ)

1995年愛知生まれ。主な出演作に映画『彼女来々』『ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい』『ミンナのウタ』『Chime』『バジーノイズ』、舞台こまつ座『太鼓たたいて笛ふいて』『桜の園』た組『綿子もつれる』など。



監督 | 足立紳
(アダチシン)

1972年鳥取県生まれ。松田優作賞受賞作『百円の恋』が2014年に映画化。同作で日本アカデミー賞最優秀脚本賞。2019年『喜劇 愛妻物語』で東京国際映画祭最優秀脚本賞。NHK連続テレビ小説『プギウギ』で脚本を担当。



Nature & Culture
Destinations | 02

えないど
江内戸の景

豊後大野を象徴する景観。悠々と流れる大野川と河岸段丘、そこで営まれる人々の暮らしの様子がうかがえる風景です。

豊後大野市イメージキャラクター



ヘプタゴン
9歳の女の子、
実はアイドル
になりたい。



なばっピー
5歳の男の子、
ヘプタゴンの
弟。



Nature & Culture
Destinations | 01

原尻の滝

然そのものをまるごと感じられるまち・豊後大野。九州・大分県にあるこの地を訪れると、本当にここは日本だろうかと思いたくなるほど、ダイナミックな景観が目の前に広がります。豊後大野の大地は、およそ9万年前に起きた阿蘇火山の巨大噴火による火砕流に埋め尽くされました。その後、そこに水が流れ、命が生まれ、豊かな大地がよみがえりました。水と大地に育まれたこの地は、植物、動物、そして人々の営みの場となり、その生命が脈々と受け継がれています。中央には大野川、周囲をくじゅう連山、阿蘇山、祖母・傾山系の山々に囲まれた豊後大野市全域は、「日本ジオパーク」に認定されています。さあ、まだ味わったことのない感動がたっぷり待ち受ける豊後大野へ、かけてみましょう。

まだ知らない感動を探しに
豊後大野へ



Nature & Culture Destinations | 08 **岩戸の景観**

高さ50m、長さ500m。大野川と奥岳川の合流点にそびえ立つ大絶壁は「岩戸」と呼ばれています。おおいた豊後大野ジオパークの特徴である縦に割れ目の入った岩のかたち「柱状節理」がよくわかる場所で、阿蘇火山の3回目と4回目の噴火による火砕流でできています。その真ん中から、電車が飛び出すような光景が見られ、多くの鉄道ファンを魅了しています。JR豊後清川駅とJR三重町駅間に位置する場所。時刻表を確認してから訪れるのがおすすめです。



ふこうじまがいぶつ **普光寺磨崖仏**
Nature & Culture Destinations | 06

異世界に迷い込んだような雰囲気 of 普光寺。境内には高さ11.4m、日本最大級の磨崖仏が約12万年前の火砕流に彫られています。別名「あじさい寺」とも呼ばれ、毎年6月中旬には敷地内に咲く約3,000株のあじさいを見物に多くの人が訪れます。

全国的に見ても、磨崖仏の数が多い豊後大野。磨崖仏とは、岩肌に直接彫られた仏像や明王のことです。この地の磨崖仏の多くは、約9万年前の阿蘇火山巨大噴火の火砕流が冷え固まった岩・溶結凝灰岩に彫られています。表面が滑らかで加工しやすい部分を選んで彫られました。



すがおまがいぶつ **菅尾磨崖仏**
Nature & Culture Destinations | 07

平安時代後期に作られた、豊後大野を代表する磨崖仏です。9万年前の阿蘇火砕流の溶結凝灰岩に彫られています。中心には阿彌陀如来、左に千手観音と薬師如来、右には十一面観音、毘沙門天が立体的に彫り込まれています。その精緻な作りから、国の重要文化財にも指定されている貴重な磨崖仏です。時間を忘れ見惚れてしまう、美しい磨崖仏をご覧ください。




豊後大野の大地のなりたちや自然、歴史、文化、産業の発展など深く学べる施設です。ジオラマやデジタル機器の展示、岩石や化石・鉱物の展示も充実。楽しみながら知識を得られて、豊後大野めぐりがより楽しくなるでしょう。

ふれあい・学びの杜
豊後大野市資料館ジオパークミュージアム



〒豊後大野市三重町内田881 ☎0974-24-0040

🕒9:00～17:00 ㊟月曜、国民の祝日、12/28～1/4

㊟無料





じんかくじ **神角寺**
Nature & Culture Destinations | 09

千年以上の歴史を持つ古刹です。境内には約500本のシャクナゲが植えられており、4月下旬から5月上旬には「神角寺しゃくなげ祭り」が開催されます。展望台からの見晴らしも抜群です。



ゆうじゃく **用作公園**
Nature & Culture Destinations | 10

江戸時代の別荘地で、心字池・丹字池を中心に500本以上の紅葉が植えられています。11月中旬から下旬には「用作観光もみじ祭り」を開催。週末・祝日にはライトアップされた優美な紅葉を楽しめます。



ニホンカモシカ



ツクシ
アケボノツツジ



キレンゲ
ショウマ

大分県と宮崎県をまたぐ祖母・傾・大崩山系はユネスコエコパークに登録されています。急峻な岩峰や多くの渓谷が独特の美しい景観を作り出すとともに、ニホンカモシカやツクシアケボノツツジなど、希少な動植物が多数存在する生態系を作っています。

大自然に包まれる ユネスコエコパーク



01 祖母山 標高 1,756m

日本百名山のひとつに数えられており、切り立つ岩峰とそれを取り巻く濃密な自然林は、雄大で登山者を魅了します。山頂付近では、春はツクシアケボノツツジ、初夏にはオオヤマレンゲなどを見ることができます。



ー 祖母山登山ルート ー

●中級者向け「宮原コース」

第一吊橋を渡ると、尾根に至るまで続く急斜面。尾根沿いの「馬の背」では、祖母山から古祖母山までを一望できます。

●中上級者向け「黒金尾根コース」

第一吊橋の下をくぐり溪谷沿いを歩きます。第二吊橋で渡渉し、天狗分かれの縦走路に至るまで急登。山頂付近はハシゴが続きます。



04 白山川

ホタルが乱舞する清流で、日本名水百選のひとつ。シーズンには「名水白山川ホタル祭り」も開催され、多くの観覧者が訪れます。

02 川上溪谷

祖母山尾平登山口周辺に広がるこの溪谷は、夏には深い緑に包まれ、森林浴の森百選にも選ばれています。



03 傾山 標高 1,605m

日本昔話「吉作落とし」の舞台になるなど、頂上周辺には垂直に切り立った崖が発達し、迫力のある景観となっています。春になると1,400mを過ぎるころから、ツクシアケボノツツジの開花を見ることができます。



Nature & Culture Destinations | 12 こうかんきょう 虹澗橋

「谷を渡る虹のような橋」という意味を持つ橋です。地元の豪商たちが資金を出し合い、建造しました。完成したのは江戸時代後期の寛政7(1828)年のこと。阿蘇溶結凝灰岩の切石を多数使用した堅牢で美しい橋は、国の重要文化財に指定されています。

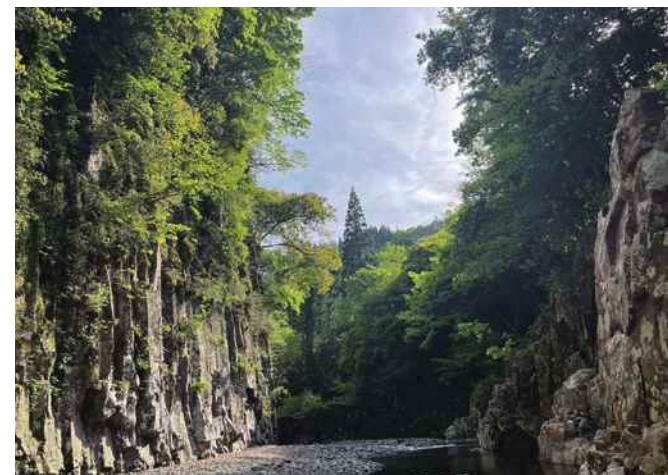


Nature & Culture Destinations | 13 原尻橋

原尻の滝のすぐ上流にある5連アーチの石橋。「石橋の町」とも言われる緒方町にある、豊後大野の代表的な石橋のひとつです。橋の長さは73m、大正12(1923)年に完成しました。当時のままの堂々たる姿を残しながら、現在でも使用されています。

Nature & Culture Destinations | 14 たいざこきょう 滞迫峡

両側を溶結凝灰岩の絶壁に囲まれた、奥岳川沿いの清らかな溪谷です。高さ70mにも及ぶ岸壁もあり、迫力の光景が広がります。谷底にはおよそ1,500万年前の火山活動でできた岩石が露出。夏はリポートレッキング、秋は紅葉など自然を満喫できる場所です。



Nature & Culture Destinations | 11 出会橋・轟橋 とどろ

奥岳川にかかる近接した石橋です。轟橋は昭和9(1934)年に架けられた2連の石橋で、アーチの幅は日本一。出会橋は大正13(1924)年に架けられ、アーチの幅は全国2位です。全国トップの橋の共演を楽しみましょう。

後大野には九州屈指の河川である大野川をはじめ、豊かな水がそこかしこに流れ、深く美しい溪谷を作っています。そして、深い谷を渡るための石橋も数多く築かれてきました。心が浄化されるような清流にふれ、先人が造り上げた石橋と自然が調和する風景を眺め、日々の雑事を忘れる。そんな時間を過ごしてみませんか。

豊

後大野には九州屈指の河川である大野川をはじめ、豊かな水がそこかしこに流れ、深く美しい溪谷を作っています。そして、深い谷を渡るための石橋も数多く築かれてきました。心が浄化されるような清流にふれ、先人が造り上げた石橋と自然が調和する風景を眺め、日々の雑事を忘れる。そんな時間を過ごしてみませんか。



LAMP豊後大野

大自然に身を委ねる

廃材を利用して作られた「REBUILD SAUNA(リビルドサウナ)」を堪能しよう。沢からひいた水風呂も最高！

DATA 国豊後大野市緒方町尾平鉢山57
☎0974-47-2080 ※火・水曜は定休日



ロッジきよかわ

心身が開放される天国

セルフロウリュもできる「JOKI SAUNA(ヨキサウナ)」。JOKIとはフィンランド語で川という意味。大自然に溶け込もう。

DATA 国豊後大野市清川町宇田枝158
☎0974-35-3601



稲積水中鍾乳洞

汗をかいたら水中鍾乳洞へダイブ

3億年前に形成され、30万年前に水没した水中鍾乳洞を水風呂として利用できる希少なサウナ。

DATA 国豊後大野市三重町中津留300番地
☎0974-26-2468



カフェパラム

風を感じる手づくり小屋サウナ

外気浴が心地よい、川辺に佇むセルフビルドサウナ「TuuliTuuli」は、フィンランド語で風の意味。絶品サウナ飯もおすすめ。

DATA 国豊後大野市清川町三玉1699-2
☎090-4340-2906



ホテルますの井

屋上サウナ、屋内個室サウナを完備。

DATA 国豊後大野市三重町市場95
☎0974-22-1050



おおいたハピキャンくらぶ

自然の中でテントサウナ体験。オリジナルロウリュも。

DATA 国豊後大野市朝地町綿田1294-3
☎097-560-0344



おかえりハウス

大空の下、「おかえりサウナ」を満喫！

DATA 国豊後大野市大野町田中241-7
☎0974-34-3500



体験型農家民泊お陽さまと風

民泊施設で利用できるテントサウナ。

DATA 国豊後大野市清川町六種2092
☎0974-35-2104 ※要予約



大野町ふるさと体験村

竪穴式住居のあるキャンプ場でテントサウナを体験。

DATA 国豊後大野市大野町中土師610-1
☎0974-34-3548



リバーパーク犬飼

テントサウナのレンタルが可能です。

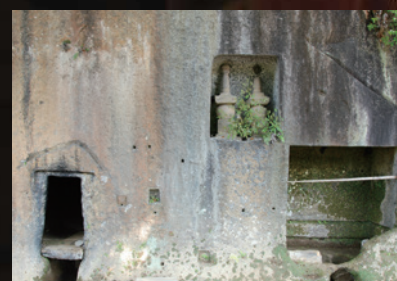
DATA 国豊後大野市大飼町田原714-33
☎097-578-1189



サウナのまちで 極上とのい体験

おんせん県として知られる大分県のなかで、
おんせんがないまち豊後大野。
代わりに古くから石風呂文化が発展し
「サウナのまち」を宣言しています。

撮影場所: ロッジきよかわ「なほサウナ」



古来より伝わる
石風呂文化
風呂文化が根付
いていた豊後大
野。古来より岩壁に穴を
掘りセキシヨウなどの
薬草を焚いて、蒸し風呂
を楽しんできました。写
真は、緒方町にある「辻
河原石風呂」。梵字が彫
刻されており、仏教との
関連がある施設です。県
の有形民俗文化財に指定
されています。



Sake Brewery | 02 **浜嶋酒造**

創業は明治22年、日本酒「鷹来屋」が有名な酒蔵。店舗の前の「鷹来屋ガーデンささら」では発酵食ランチやスイーツ、利き酒セットも楽しめます。



DATA 国豊後大野市緒方町下自在381
0974-42-2216 9:00~18:00
※酒蔵見学は要問い合わせ 国不定



Sake Brewery | 04 **藤居醸造**

昭和4年創業の酒蔵。焼酎の「泰明」と「特蒸泰明」がメイン商品。蔵の隣の「FUJII BREWERY」では、クラフトビールの醸造・販売を行っています。



DATA 国豊後大野市千歳町新殿150-1
0974-37-2016 9:00~17:30
※酒蔵見学は要予約 国不定



Sake Brewery | 01 **吉良酒造**

創業は明治4年。酒蔵は築100年以上にもなります。看板商品は日本酒の「丹誠」。ワインのような味わいの「ゆすらもも」は女性に人気です。



DATA 国豊後大野市緒方町下自在359
0974-42-2205 8:00~18:00
※酒蔵見学は要予約 国不定



酒蔵
Sake
Brewery



アート
Art

Art & Culture **朝倉文夫記念館**

豊後大野市出身の彫塑家・朝倉文夫は“東洋のロダン”と称され、日本近代彫刻の礎を築いた人物です。ここでは彼の作品が常時約40点展示されています。山と一体となるような設計の館内は、柔らかな光が心地よい静かな空間。敷地内の庭園を散策するのもおすすめです。

DATA 国豊後大野市朝地町池田1587-11 0974-72-1300
10:00~17:00 国月曜 ※祝日の場合は翌日、年末年始
国一般500円・小中高生200円



神楽
Kagura

日本各地で受け継がれる神楽は、神を祀るために歌や舞を奉納する神事芸能です。豊後大野市の神楽は、出雲の神楽に影響をうけ発祥したと考えられる、大野系岩戸神楽と呼ばれています。舞は太鼓や笛の音と共に、大きく激しい動作を多用して、荒ぶる神々の神話などを表現しています。神楽以外にも獅子舞や白熊（羽熊）などの郷土芸能が受け継がれており、地域のお祭りでその様子を見学可能です。



Traditional Culture **神楽会館**

毎月1回ほど、神楽の定期公演が行われている施設です。息遣いまで伝わる距離で、じっくり伝統芸能を鑑賞できます。

DATA 国豊後大野市清川町砂田810 0974-35-2372
8:30~17:00 国月曜 ※祝日の場合は翌日、12/29~1/4



市内産の農林水産物等を活用した加工品や市内で製造された加工品等を豊後大野ブランド「大地の物語」として認証しています。調味料やお菓子など美味しいものが勢揃い!大地の恵みが詰まった商品をご賞味ください。



豊後大野
ブランド
Brand



Local Delicacy **野菜**

「大分の野菜畑」と言われるほど、野菜の生産が盛んな豊後大野。特に夏秋ピーマンやさつまいもが有名です。



Local Delicacy **和牛**

豊後大野は大分県内で「おおいと和牛」の主要な産地のひとつ。大自然で育った和牛は絶品です。



Local Delicacy **乾しいたけ**

大分県は乾しいたけの生産日本一。豊後大野では良質なものが数多く生産されています。

特産品
Specialty



ホテル

ホテルますの井

〒豊後大野市三重町市場95
☎0974-22-1050



旅館

三国家旅館

〒豊後大野市三重町市場496
☎0974-22-0126



宿泊施設



ゆっくりと体を休め、静かな時間が
を過ごし旅の英気を養う。そんな
豊後大野の宿をご紹介します。



ホテル

HOTEL AZ 大分三重店

〒豊後大野市三重町赤嶺1148-1
☎0974-24-0101



旅館

あづまや

〒豊後大野市大野町田中2308-2
☎0974-34-3318



キャンプ場

いなづみ白山川キャンプ場

〒豊後大野市三重町中津留300番地
☎0974-26-2468



ホテル

里の旅リゾートロッジきよかわ

〒豊後大野市清川町宇田枝158
☎0974-35-3601



旅館

いしかわ旅館

〒豊後大野市三重町赤嶺1153
☎0974-22-1182



キャンプ場

ふるさと体験村

〒豊後大野市大野町中土師610-1
☎0974-34-3548



ホテル

LAMP 豊後大野

〒豊後大野市緒方町尾平鉾山57
☎0974-47-2080



旅館

箱崎旅館

〒豊後大野市大野町田中188
☎0974-34-2005



キャンプ場

リバーパーク犬飼

〒豊後大野市大飼町田原714-33
☎097-578-1189



02

道の駅「きよかわ」



雑貨屋、豆腐屋、パン屋など多数の店舗が
軒を連ねる道の駅。特産品の桃と金ゴマの
商品が揃っています。ももソフトは必食。



クリーンピーチ

ももソフト

〒豊後大野市清川町砂田1574-1
☎0974-35-2117
☎7:30～18:00



01

道の駅「みえ」



特産品のサツマイモを使った商品が豊
富。大野川の雄大な景色「江内戸の景」を
望む高台にあり、眺めも抜群です。



おやこバーガー

シャインマスカットの
ソフトクリーム

〒豊後大野市三重町宮野2791-1
☎0974-24-0010
☎9:00～18:00(3-10月)、
9:00～17:00(11月～2月)



道の駅めぐり

豊後大野にある5つの「道の
駅」を完全攻略！美味しい名
産品やレアな特産品をお見
逃しなく。



05

道の駅「おおの」



周囲の畑から採れた新鮮野菜が自慢で
す。惣菜やパン、味噌、豊のしゃもの加工
品も販売。酒まんじゅうもおすすです。



豊のしゃもの親子丼

いもの
ソフトクリーム

〒豊後大野市大野町田中43-10
☎0974-34-3231
☎9:00～18:00



04

道の駅「あさじ」



朝地産の豊後牛、綿田米、シイタケ、銘菓
など、おいしい特産品が多数そろっていま
す。工芸品も販売中です。



豊後牛メンチカツ

しいたけソフト

〒豊後大野市朝地町板井迫1018-1
☎0974-64-1210
☎9:00～17:30



03

道の駅「原尻の滝」



名所「原尻の滝」にあり、賑わいを見せる
施設。地元ならではの特産品が揃い、地酒
コーナーも充実しています。



だんご汁

ソフトクリーム

〒豊後大野市緒方町原尻936-1
☎0974-42-4140
☎9:00～17:30(3-11月)、
9:00～16:30(12月～2月)



犬飼町 Inukaimachi	千歳町 Chitosemachi	大野町 Onomachi	朝地町 Asajimachi	緒方町 Ogatamachi	清川町 Kiyokawamachi	三重町 Miemachi
 福祉事業所が運営する「nagomi coffee」。おいしくてリーズナブル、そしておしゃれな落ち着いたカフェです。コーヒーにぴったりの焼き菓子も要チェックです。	 異様な風貌と雰囲気を漂わせている「大迫磨崖仏」。お面をつけたような顔は、麻などの繊維を混ぜた粘土を貼り付け作られました。県指定有形文化財です。	 手づくりの「羽田野商店のチャーシュー」は、大分県産の九重夢ボークを使用。特製しょうゆタレに漬け込みじっくり焼いた逸品です。絶妙な旨味と焦げ目がたまりません。	 一度途絶えてしまった地域ブランド・朝地牛を復活させた、大分県産黒毛和牛専門店「あさじ牛」。雄牛の黒毛和牛のお肉はもちろん、あさじ牛ハンバーグもおすすめです。	 原尻の滝周辺で毎年11月に行われる、800年の歴史を持つ「緒方三社川越しまつり」。燃え盛る松明を手に、ふんどし姿の若者が神輿を担いで川を渡ります。	 農作業の合間のおやつとして、この地域で古くから親しまれている「酒まんじゅう」。手づくりの優しい甘さがカラダにしみわたる、むかしながらの味をどうぞ。	 ジューシーで柔らかな大分のブランド牛「おおいた和牛」を心ゆくまでガッツリ食べたい！そんな欲を満たしてくれるお店が「大八商店焼肉研究所」です。
 大野川などの清流でとれる鮎を使った料理や特産品、一度は食べてください。鮎の身や内蔵を塩漬けにして発酵させた珍味「鮎うるか」は、酒の肴にも最適の品。	 薪窯で焼かれる、絶品のナポリピッツァをいただけるカフェ「ペーパームーン」。緑の中を走り抜けた先にあるお店です。陽がふりをそく店内は、長居したくなる心地よさ。	 佐野弘樹さんと天野はなさんが立ち寄った「明尊寺」。毎年11月においしい精進料理をいただけます。大晦日に振る舞われるつきたてのお餅が入ったお雑煮も絶品です。	 大野町の山片茶園の紅茶としょうゆ、酢、みりん、酒で味付けされた猪肉の加工品「紅茶いのしし」。さっぱりした味わいが人気。道の駅あさじで販売しています。	 しみじみおいしいパンや焼き菓子、ケーキを提供している「キッチンうすだ」。「やまカフェ」では、四季の自然を楽しみながら、野菜たっぷりのランチも楽しめます。	 標高568mの「御嶽山」は山頂からの眺望が抜群で、360°の大パノラマを満喫できます。御嶽山につづく御嶽桜ロードには、約3,000本の桜並木があり、見応え十分。	 昭和23年創業「おかしのHADA」。バウムクーヘン「TOKIBAUM」のハードがいちおし。外側のカリッと食感と絶妙な甘さ、濃厚なバター風味に感動する一品です。
 豊後大野の玄関口として利用されていた、川港「犬飼港跡」。川舟から荷物の上げ下ろしをした石畳が残っています。悠々と流れる大野川岸で、歴史に思いを馳せてみましょう。	 県内外からお客さんがやってくる人気カフェ「ちとせや緑茶」。見た目かわいいドリンクがいっぱい。大自然の中の小さなドライブインとして、お土産や雑貨なども販売中。	 昭和55年に完成した「師田ダム」は、桜やツツジなど四季の植物を愛でながら散策できます。展望台や遊歩道、「師田原ダム水神社」にも立ち寄ってみましょう。	 日本ミツバチの貴重な蜜で干し柿を覆った新感覚の和菓子「はちみつ干し柿」。使用している柿は、地域で大切にされている固有種です。滋味深く優しい甘みをご堪能あれ。	 昭和7(1932)年に建造された「旧緒方村役場」は役場、公民館、学校などに利用されてきました。国の有形文化財に登録されており、令和4年に復元改修工事が完了しています。	 高さ12m、幹の太さは10mもある「イチイガシ」。林道の奥に根を張る巨木は、大分県特別保護樹木にも指定されています。	 冬から春先にかけて立ち寄りたい「あつきらきら農園」。時間無制限＆食べ放題のいちご狩りを楽しめます。粒が大きくジューシーないちごを心ゆくまでめしあがれ。
 大正8(1919)年創業の「仲町製菓」は、地元で100年以上愛されている老舗菓子店。鮎の形をした最中「犬飼のあゆ」や、優しい甘さの白あん「若鮎」が定番商品です。	 昭和の空気をそのまま伝える喫茶・食事処「レストハウスひまわり」。味もボリュームも満点で、地域の人にも愛されています。個性的なマスターのお話も楽しいお店です。	 天空のそば処とも呼ばれ、秘境感あふれる山の中で営まれているそば処「佐くら」。店主の手打ちそばはもちろん、大ぶりの鶏のからあげも絶品です。テラス席もおすすめ。	 地元農家の人々で運営されている「里の駅やすらぎ交差点」は、新鮮野菜が並んでいます。「だんご汁定食」や「原木どんこ寿司」「よくばりコロケ」などがおすすめ。	 カフェ、ゲストハウス、コワーキングスペースがある「cocomio」は、豊後大野市関係人口交流拠点施設です。ちょっと仕事をしたり休憩したり、いろいろな使い方ができます。	 道の駅よかわの道路を挟んだ向かいにある「からあげきよかわ」は、バリバリ固めの衣とジャンクな味つけ、ジューシーなお肉がたまらないからあげ店。冷めてもおいしい！	 一棟貸しの小さな宿「オーガニックライフスタイル小満(こみち)」。良き食、良き場所、良き体験を体感できる静かな場として、国内外から人が集まっています。
 豊後花火発祥の地で、毎月第1土曜日に打ち上げられる5分程度の小さな花火大会「豊後犬飼のちいさな花火打ち上げ会」。記念花火の打ち上げも可能です。	 無数のひょうたんがぶらさがる「ちとせ花ひろば」。ひょうたんはランタンになっており、毎年冬にはイルミネーションが点灯。凍える夜をきらびやかにライトアップします。	 モーニングやランチも充実している「田中町珈琲店」。広々と明るい店内は休憩にも、食事にもぴったりです。県内では珍しい私設のシェア図書館が併設されています。	 神角寺展望所からすぐの、やすらぎ広場の南に位置する展望台。特徴ある形の展望台に登ると、九州の山々を一望できる大パノラマが広がります。きらめく星空観察にもぴったり。	 森のなかにある小さなお店「洋菓子工房アンティーク」は、グルテンフリーの洋菓子や、地元食材を使用したスイーツなどを提供する洋菓子店。イチオシは米粉ロール。	 800年の歴史を持つ由緒ある寺院「宝生寺」。「彩の宝生寺」「宝生寺の秋」とも称されるほど、鮮やかな紅葉で有名です。シーズンには多くの人が訪れています。	 お子様連れの旅を楽しむなら、思いっきり遊べる「大原総合公園」がおすすめです。大きな滑り台をはじめ、カラフルな遊具が49アイテム揃っています。

映画スタッフのおすすめリスト

県内外から集結した映画スタッフたちの
お気に入り・気になるスポットを紹介！



Annual Event Calendar of Bungoono City

12月—●ひょうたん祭り



ひょうたん祭り

□道の駅…………… P12



豊

後大野には探検したくなる
魅惑的なスポットがいっぱい。緑深い山でトレッキングや本格
的な登山を楽しんだり、清らかな
溪谷へ訪れたり。人々の叡智が集結
した石橋も、文化的に貴重な石仏
もたくさんあります。大自然に浸
るサウナも外せません。ゆく先々の
道の駅では、グルメやおみやげ探し
も楽しみましょう。

Explore Bungoono, Highlights Map

豊後大野みどころマップ

豊後大野紀行

詩人・御徒町風



四十も後半になったというのに、まだ「生きる」ということに思案を巡らせている。物心がつくずっと前からしていることで、大人になればなくなると思っていたその予想はどうやら外れたようだ。人生の最終盤を迎える頃にはそうなっているのか、はたまたその記憶さえ無くなっているのか、それも分らない。人はなぜ生まれ、生き、死ぬのか。そして本当に死は訪れるのか。生きている限り、死は経験できない。よって「死」に関してだけはいつまで経っても予測の域を出ることはない。そもそも生き死について考えることが不毛なことは分かっている。考えてどうこうできることではないし、明確な解を導いて、綺麗に着地するようなことでもないのだから。それでも考える。ずっと考えている。考えることに疲れると考えなくなる。何かに熱中している時も考えない。麻雀をしていたり、仲間と団楽していたり、不条理な出来事に遭遇したり。瞬間的な集中状態。つまり日常に追われ、手前のことに精一杯生きている時、俺はそこから解放されている。そしてどこかで、その状態が

理想だとも自覚している。なかなか難しいのではあるが。十代半ばから詩を書いていて、詩を書くときは極度の集中状態にある。目の前にある紙と手に持ったペン、時にはパソコン。それ以外のことは意識からなくなる。当然、詩情を誘発した対象は常にイメージを支配するものの、それは無意識にまで押し進んでいるから思考からは遠い。そして押し進られたイメージは全てと繋がっていき、溶けると言った方が正確か。その状態にある時心は穏やかで、冒頭で語ったような個人的な思案からも無縁だ。只、あるという感覚、言い換えれば「何もない」という境地。本当はずっとそこにいたいの、肉体は常にここに存在し、腹も減るし疲労も溜まるから、息の続く限りしかいられない。二十代や三十代の前半くらいまでは、いつでもそこに行ける感じがあつた。今振り返ってみると、やや雑な行き方だった気はするものの、それなりにやれていた。しかし結婚をし、子供を授かって、保育園の送り迎えなんかで日々を過ごしているとその頻度は少なくなっている。いき、いわゆる「たまに」しか

できなくなった。環境に限らず、年齢的な衰えなのか、敢えてそうしているか、自分でも見当が付かない。悪いとも思っていない。詰まるところ俺にとって詩を書くということは、ある種の逃避行動なのかもしれない。頼まれたわけでも、教わったわけでもなく、正しく呼吸をするための一つの方法なのだ。正しい呼吸と書いてはみたが、正しさの定義さえも曖昧ではある。

二〇一四年十一月の末、友人に誘われて豊後大野を旅した。生来旅が好きで、思い立った時には足が向いている。旅とはつまり日常を離れ、不慣れた場所を訪れるということだ。ヨーロッパの歴史建築を巡るのも、南の島でのんびりするのも、隣町の知らないファミリー屋に行くのも、俺にとっては旅だ。旅であればどこでも良い。行けば行っただけ知らなかった感覚に触れられ、つまらなかったことも面白かったこともその肌触りは新鮮だ。そんな旅の最中、意識は内側へは向いていない。流れる車窓に促され、たとえ半生を顧みるような情趣に触れようと、自意識からは解放されている。物理的に日常のルーティンから離されているからか、全てのことが緩く他人事のように受け入れられる。映画に没入している感じに近しいのだろうか。映画に五感はずわなないが。

大分空港から東九州自動車道を一時間ほど走り、大分米良一ICを降りてしばらくすると「道の駅みえ」の看板が見えてくる。連れ合いに「もうここ豊後大野」と尋ねると、そうだとと言う。これといって変わり映えのしない景色かと思つていたら「ここです」と、きちんとした道の駅に車を停められた。辺りには水田が広がっていて、特徴的な水路が真つ直ぐと伸びている。「ああ、地方に来たなあ」としみじみと息を吸った。そして案内されて数十メートル歩くと、突然、眼下に雄大な滝が広がっていた。原尻の滝である。普通、滝のイメージって高所の山間から水が流れ落ちてくるものだがこの滝は開けた平野に忽然と姿を現す。その様は峻険な滝のイメージからはほど遠く、石段を伝って滝壺の方まで降りて行くと、視界の半分以上が轟音と水の壁に包まれるのだ。いくつかの名勝を案内されるつもりではあったが、俺はその不可思議な景観に心奪われ、しばらくその場所で過こさせてもらうことにした。

原尻の滝
まだ私に
名前がなかった頃
昼過ぎまで寝ることに
なんの躊躇いもなかった

吹き抜ける風を
風とも思わずに
陽の光をただ
陽の光と受け止めた
流れ落ちる悠久さえも
この刻にとどまり
臍（その）下の窪みに
おもむろに力を入れる
乱反射する
あらゆる思惑が
克明に
愛しい

ガイドブックに拠れば、豊後大野はその全域が九万年前の阿蘇山の大噴火で火砕流に覆われたという。堆積した火砕流はやがて冷えて固まり凝灰石となり、それからまたゆつくりと川が流れ今の地形になったのだそうだ。確かに意識してみると、その地形は異様で、生い茂る植物にも、えも言われぬ迫力がある。原尻の滝は「東洋のナイアガラ」と称されることもあるらしく、「こんな壮観な景色と出会えるとは思つてもみなかった。まさに旅の醍醐味だ。」

それからまた車で二十五分ほど移動した山間に、ひっそりと佇む寺院があつた。控えめな看板に「普光寺」とある。正門を潜るとすぐに深い溪谷があり、正面の山肌には巨大な石仏と舞台が設えてある。最低限に舗装された勾配のキツイ遊歩道を伝い近づいてみると、実際の大きさに驚かされる。辺りには人里の気配もなく圧倒的に静かで、遠く視

を願っている。最後に、日本一のアーチを誇る石橋が並んでいるという「轟橋」と出会橋の袂で書いた詩を紹介させてもらい、筆を置くことにする。再再訪を誓つて。

用事

何か用事があつて
立ち上がる
何か用事があつて
歩き出す
何か用事があつて
立ち止まる
そして考える
そもそも何がしたかったのか
何か用事があつて
川を越える

その先のことは
その後についてくる



御 徒 町 風
(オカチマチ カイト)

1977年東京生まれ。詩人。2006年第一詩集『人間ごっこ』を刊行。以後『人に優しく』『砂の言葉』『雑草・他』、写真家・佐内正史との写真詩集『Summer of the DEAD』などがある。『生きてること』が辛いなら』で「第50回日本レコード大賞作詞賞」を受賞。様々なアーティストへの歌詞の提供や舞台演出、詩の朗読会など幅広く活動中。近年では、北海道に拠を構え、日高地方のWEBマガジン『Hi-MAG』、詩のコンテスト『道産詩賞』の主催などもしている。

界の外から川の音が聞こえるくらい。舞台上に腰を下ろし、形ばかりの坐禅を組んで呼吸を整える。ここから見える全てが人智を超えた何かを感じさせる。火砕流堆積物の岸壁は、比較的柔らかいらしく、豊後大野にはここ以外にもいくつかの石仏が存在するらしい。先に行つた滝と同様に「本当にここは日本なのか？」と疑いたくなるようなスケール。それでいて押し付けがましい説明がない。俺はまたスケッチブックを広げて、心に去来する何かを文字にしていた。

普光寺

白い光と
黒い光に
挟まれて
燃え盛る命

せせらぐ川に
鳥たちは憩い
瞬く間に
世は移ろう

季節の色を
詠う自由に
獣の汗が滴れば

手放した感動が
舞い戻る
空腹の午後

温泉県と言われる大分で、ここ豊後大野市は温泉が出ないのだという。そんな観光的なデメリットを払拭するべく、近年では市を挙げて「サウナ」を推しているらしい。「サウナ」という言葉が生まれるよりもずっと前からサウナを愛好していた俺にとって、それは耳寄りな情報だった。聞けば、「いい感じ」のサウナがいくつもあられるらしく、旅の行程的に行きやすそうなサウナに連れて行ってもらった。ON

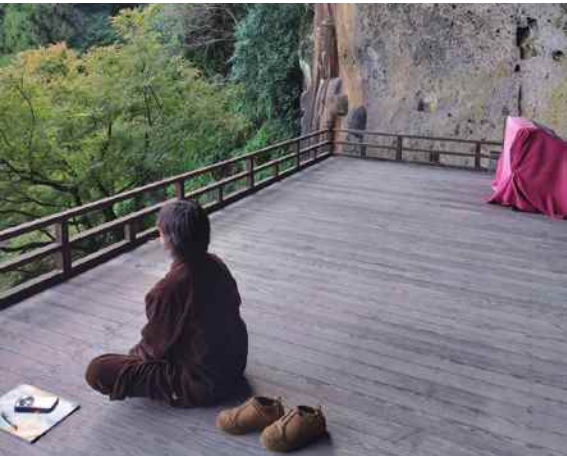
SANUKIは奥岳川沿いにある「ソントサウナ」で、予約をすれば隣のコテージに宿泊もできる。日も暮りかけた頃、若い女性の二人組と入れ違いで大自然の中にあるサウナを堪能する。比較的新しくできた施設だけあつて清潔感もあり、若いスタッフが丁寧に案内してくれた（彼はサウナ関係のアパレルもやっていた。程よく体が温まった後、サングラスを引つ掛けて砂利道を行き、目の前の奥岳川へ頭からダイブ。過去に湖の水風呂は経験したことはあったが川の水風呂は初めてで、体温が作る冷水からのバリアー、通称「羽衣」をあっという間に流し去っていく。幸いこの季節にしてはそれほど寒くなかったから仰向けになつて脱力し、水面を行く枯葉のような気持ちになつて放心していた。ちなみに真冬になると水温は五度近くまで下がるらしく、考えただけで全身から鳥肌が立ちそうだが、それはそれでやつてみたい。次回期待。

無題

ある時私は水だった
山の頂から海を目指す
清流の中を揺蕩（たゆた）う一雫
それから私は空になった
時に自由に縛られて
鳥の羽を支えたり

言葉を持たない
無限の存在
星の光
震える大地

風が私を行けば
私は風になる
あなたを通り過ぎ
次は何になるのだろう



紙幅の都合上、旅の足跡を全網羅することは諦めるが、豊後大野のそこ知れぬ魅力が少しでも読者に伝わることを